

経済産業部

「沖縄感性・文化産業シンポジウム」の開催について

POINT

経済産業部では、昨年3月にとりまとめた沖縄地域経済産業ビジョン（中間報告）において「沖縄感性文化産業」を今後の沖縄の重要な産業分野のひとつとして位置づけ、昨年8月には「沖縄感性・文化産業研究会」を設置し、報告書を取りまとめる等、その振興に取り組んでいるところです。この取組の一環として、平成23年3月23日（水）に、国立劇場おきなにて、「沖縄感性・文化産業シンポジウム」を開催いたしました。

このシンポジウムは、沖縄の文化や伝統などの継承と更なる普及及びこれを求心力とした観光や関連産業の振興の可能性と必要性を、県民の皆様に広く認識していただくことを目的とし、第Ⅰ部 沖縄感性・文化産業に関する講演と第Ⅱ部 沖縄空手関連産業の振興をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。

第Ⅰ部の講演で、最初に、山内徹 経済産業部長が、国が推進する「文化産業」を紹介。文化産業では、「ファッション」「コンテンツ」「観光」及び、「食文化」という分野



会場の様子

横断的連携の強化が力ギとなるが、そのすべてに当てはまる沖縄こそ文化産業で立国し、日本の「文化産業立国」のモデルとなりうると講演しました。

続いて、沖縄感性・文化産業研究会の座長を務められた富川盛武氏（沖縄国際大学



【来賓挨拶】 仲井眞 沖縄県知事

大崎 洋氏（吉本興業株式



【講演】 大崎吉本興業（株）社長

会社代表取締役社長）は、「お笑いとは生活の文化であり、お笑いの質が社会の人々の豊かさを決定していく。沖縄国際映画祭を通じて、笑いで繋がる社会活動を進めたい。」と講演されました。

第Ⅱ部では、「沖縄空手の国際交流の拡大による関連産

業の振興」をテーマにパネルディスカッションが行われ、様々な意見交換がなされた。パネリストからは、武道性や伝統を求める世界の空手家の受け皿となることが沖縄空手界の役割であり責務であるとの指摘があったほか、沖縄空手の魅力を核とした観光等関連産業の振興のため、空手界を始めとし、産業界や行政等関係者が連携した具体的な行動が必要であるとの意見がありました。また、文化の産業化には人を惹きつける「イメージ戦略」が必要であり、沖縄でしか手に入らない、沖縄らしい文化産業を構築することが重要との指摘があり、そのために、地域の本物の文化に触れ、それに誇りを持つ人材育成の仕組み作りが必要との意見がありました。

当日は、約270名の観光



【パネルディスカッション】

関連等のサービス業を始めとする様々な企業や、空手関係者、行政機関等の幅広い業種の方々に御参加いただき、多くの方々に関心を寄せていただきました。

「沖縄感性・文化産業研究会報告書」URL http://ogb.go.jp/move/okivision/kanseibunkakenkyukai/20110323/kb_siryou1_110323.pdf

沖縄感性・文化産業研究会報告書 — 沖縄振興に向けた感性・文化の再発見 —

概要版

沖縄感性文化産業とは

工芸品、美術・骨董品、織物、出版物などのほか、芸能、音楽、映像、ファッション、デザインなど、生活者の感性に訴える商品・サービスを創出する産業

現 状

感性・文化産業の生産額
1,508 億円（全体の 2.6%）

経済波及効果 1,119 億円

ケース・スタディ

地域文化再生の自立的ビジネス展開「現代版組踊」
ローカルコンテンツの海外市場展開「琉神マブヤー」
伝統文化を核とした関連産業の振興「沖縄空手」

課 題

沖縄の外から見た沖縄文化の魅力の認識
伝統と創造の連携の仕組み作り
マーケティング戦略の構築
地域における文化のプレイヤーの動機付け
関連産業を巻き込んだ複合展開

ケーススタディから抽出されるポイント

文化を核とした地域の再生を民間主体の持続的な事業として展開していくためのビジネスモデルの構築
地域の文化をベースにしたローカル・コンテンツの開発
伝統文化とマーケットをつなげる接点作り

施策のあり方

プロデュース機能の創出
地域におけるネットワーク構築への支援（沖縄感性・文化産業クラスターの形成）
ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスの活用
イベントやパイロットショップによる情報発信
戦略的知的財産活用のための方策
プロフェッショナル人材の戦略的育成
戦略的文化観光の構築

沖縄感性・文化の更なる発展



沖縄感性・文化産業の創出

